

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30
場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

プログラム③

質疑応答（要約） ※回答は一部個人の見解を含みます。

質問 1：地域で清掃活動を実施することについて、企業の最大のメリットは何か。

（答：N I T E 松崎氏）

- ・地域の方と信頼関係の構築ができることが最大のメリットである。
- ・職員が参加して地域の方と一緒に清掃することで、職員、地域住民の意識が全然違う。

質問 2：ビオトープを使おうと思ったきっかけは何か。

（答：大鵬薬品工業 阿部氏）

- ・工場排水は下水道に接続していたが、水道代の値上げ等もあって、その下水道代経費を削減しようと考えたのが発端である。
- ・工場からの排水はきれいな水であるので、直接海に流す事を考えたが、そのままではきれいすぎることで逆に周辺の海の生態系に影響を及ぼす可能性があったので、ビオトープを使う考えに至った。

質問 3：社員は 4 班 3 交替制 2 4 時間製造であるが、地域の活動に（ある程度数）参加するために、業務命令等でお願しているのか。

（答：大鵬薬品工業 阿部氏）

- ・業務命令等でやってもらうことはない。
- ・同じ敷地にある岡山大鵬薬品の日勤者と大鵬薬品岡山工場の日勤者の 2 0 ～ 3 0 名が集まり活動している。

質問 4：河川水からホルムアルデヒドが検出された事例では、企業の責任はどうなるのか。

（答：N I T E 松崎氏）

- ・今回の事例の場合は事故であり、法律違反はしておらず、責任問題は特に発生しない。
- ・罰則等はなく、書面による注意だけとなっている。

（※なお、この事案を受け、水質汚濁方防止法施行令及び廃棄物情報の提供に関するガイドラインが改正されている。）

日 時：平成 26 年 1 月 23 日（木）14：00～16：30
場 所：テクノサポート岡山 大会議室
「環境リスクコミュニケーションセミナー」

質問 5：経営トップにリスコミの取組を理解してもらうためには、どうしたらよいか。

（答：N I T E 松崎氏）

- ・活動の現場を見てもらい、企業イメージの向上や利益の向上をアピールするという方向で説明してはどうか。

質問 6：リスコミに取り組むことで、企業戦略に繋がることはあるか。

（答：N I T E 松崎氏）

- ・戦略的にというのは特に聞いたことはないが、公共活動の中で企業イメージが上昇するというのが一番のメリットであり、ある意味で戦略に繋がると思われる。

質問 7：地域住民の方と意見交換について教えていただきたい。

（答：大鵬薬品工業 阿部氏）

- ・当初は親睦会を開催していたが、約 5 年前から年に 1 回、親睦会の前に 30 分程度、様々な問題点を話すようにした。
- ・ビオトープ造成の承認、健康フェアや納涼大会の協力開催、苦情等への対応などについて話をしている。
- ・意見交換は（地区の）役員を招いて行っている。毎年、役員の方は変わるので、色々な方と話ができる。

質問 8：リスクコミュニケーションを行う以前、地域住民は、製品の衛生面または薬品等の使用、どちらに不安を感じていたと考えられるか。

（答：大鵬薬品工業 阿部氏）

- ・同じ敷地で医薬品も作っていることもあり、薬品等の使用に関して少し不安があったと考えられる。
- ・何か問題が生じた場合は、すぐに区長や役員、市へ報告し問題を解決している。